

# 障がい当事者とみんなで作る 「別府市における 障がい者インクルーシブ防災」

大分県別府市福祉フォーラム in 別杵速見実行委員会  
事務局 姫野 松男



## 1 はじめに

福祉フォーラム in 別杵速見実行委員会（以下、当フォーラム）は、当事者や家族、弁護士、大学教授、行政関係者、福祉関係者等が集まり2002年に設立された団体です。2007年に市内で起きたマンション火災で障がいのある女性が亡くなったことや、同年発生した群発地震により、多くの障がいのある方からの不安の声を受け、防災の問題に取り組むようになりました。2008年から障がい者も参加した避難訓練を別府市内で開催しており、障がい者の避難が困難なことについては、一定の理解が進んできたと思って

います。

しかし、本当に障がい者の命を守っていくためには、仕組みづくりと避難の実践がもっと必要だとも感じていました。2014年障がい者の防災対策を織り込んだ「別府市障がいのある人もない人も安心して安全に暮らせる条例」が、2016年には「障がいのある人もない人も豊かに暮らせる大分県条例」が施行されました。この条例を絵に書いた餅にしないために、2016年から日本財団の支援を受け、行政と協働しながら、別府市亀川地区古市町等で取り組んできたものが「別府市における障がい者インクルーシブ防災」です。

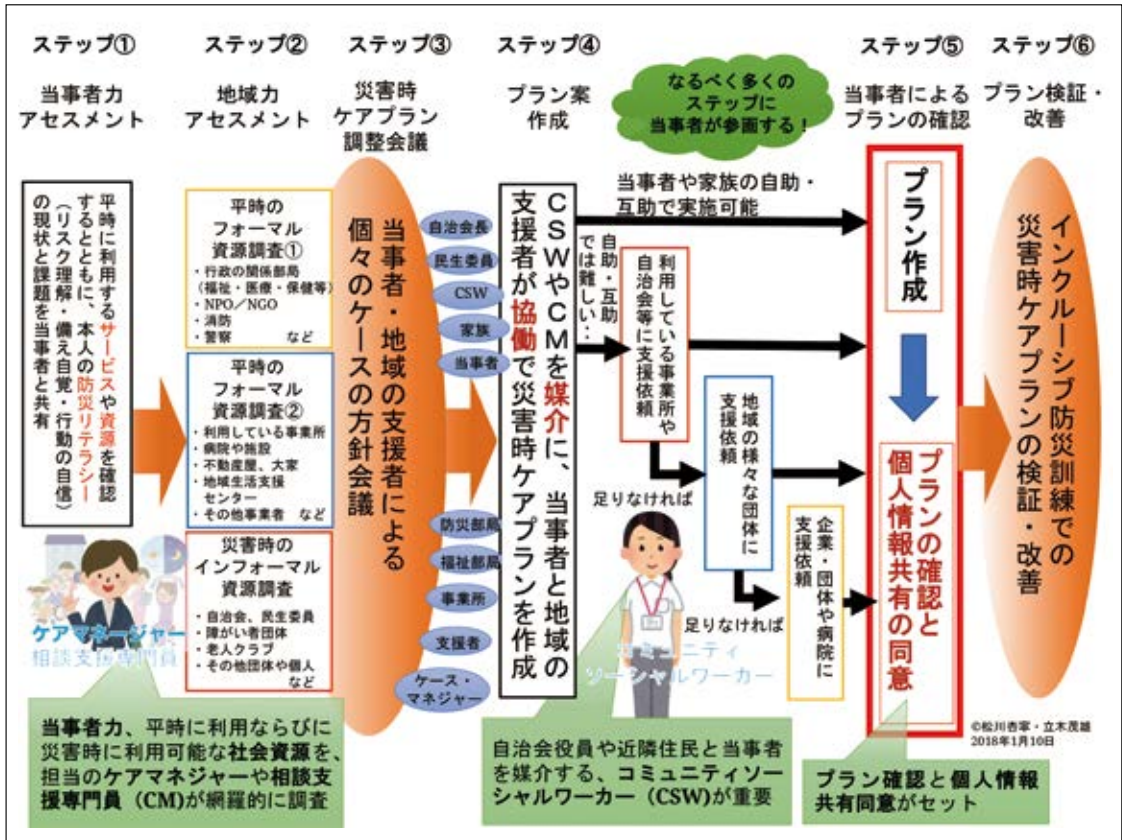


図 別府式インクルーシブ防災の進め方

## 2 「別府市における障がい者インクルーシブ防災」の3つの特徴

当フォーラムの特徴は大きく3つあります。

- ①障がい当事者ができることとできないことを明確にし、地域の人と協働する。
- ②福祉の専門家の協力のもと、コミュニティソーシャルワーカー（仮称）（CSW）を媒体に災害時ケアプランを作成する。
- ③インクルーシブ防災訓練でプランの検証を行う。

これらを、図のステップ①～ステップ⑥で見えます。通常時のケアマネージャー（CM：相談支援専門員）がヒアリングしながら本人の防災リテラシーや地域の資源を調査確認します。続いてプランを作っていくのですが、本人ができることは本人に、家族ができることは家族で対応していきます。どうしても足りない部分については、地域やそのほかに対応をお願いするしかありません。

その橋渡しをする役をコミュニティソーシャルワーカー（仮称）にお願いしています。大切なことは、ここまでの多くのステップに当事者本人がかかわることです。これは当初、難しいと思われましたが、当フォーラムの障がい当事者が、ヒアリングや地元住民との打ち合わせに積極的に参加し、地域の当事者を支援することで、多くの皆さんの理解を得ることができました。その結果、ステップ④のプランの作成では、新しいアイデアと新たなケアプランが生まれてきています（写真1）。

避難行動時の写真にありますようなりヤカーの活用は、この時住民との調整会議で導き出されたものです（写真2）。



写真1 ステップ④避難調整会議



写真2 ステップ⑥インクルーシブ防災訓練

### 3 コミュニティソーシャルワーカー（仮称）

コミュニティソーシャルワーカー（仮称）という職種も大事なキーマンとなります。どうしても行政職員は縦割りの業務になり、知識と情報もその分野でしか生かしていません。コミュニティソーシャルワーカー（仮称）は、平時と災害時にそれらの情報に横串をさせるよう、ネットワークを作っておく必要があります。そのことにより被災者（障がい者を含む）と地域と支援者を結びつけることができるのです。

### 4 障がい者と一緒に歩みながら

当フォーラムでは、計画を作った後の実践を必ず行うようにしています。当フォーラム所属の障がい当事者も参加し、訓練参加者が障がい者に遭遇する機会を増やして、訓練の効果を上げています。その結果、誘導の方法、避難所の受付、スペースの配置方法など、毎回何らかの反省が生まれ、それが次の訓練につながっていきます。現在では、避難所にはスロープ板が常備され、要配慮者・外国人・旅行者の受付も別に設けられるようになりました。

当フォーラムが防災まちづくり大賞を受賞した際、「災害時要配慮者を支援する取り組みはいくつもあったが、配慮される当事者本人が表彰される側に来てくれて大変うれしい。」とのお言葉をいただきました。誰一人も取り残さない防災のためには、障がい当事者も地域の人と計画段階から一緒に活動していくことが大切です。福祉フォーラム in 別府市実行委員会は、障がい当事者と一緒に歩みながら、別府市とともにだれも取り残さない地域での防災を進めてまいります。